The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	テオクの性質と日本語教育における提出法
Author(s)	植田, 志穂
Citation	日本語・日本文化研究. 2017, 27, p. 204-215
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/69229
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

テオクの性質と日本語教育における提出法

植田　志穂

0.　はじめに

本稿の目的は、テオクを用いない文との違いが明らかになるようなテオクの性質を記述したうえで、日本語教育におけるテオクの提出法を検討することである。

日本語教材においては一般的に、テオクの基本的な意味は「準備」であると説明される。しかしこの説明には、テオクの有無による意味の違いが捉えにくいという問題がある。

そこで本稿はテオク文とテオクを用いない文との比較から、テオクが「行為の完了を設定時と結びつける」性質を持つと規定する。この規定は Palmer（1974）が提唱した、英語における完了形が有する概念 Current Relevance（=現在との関連性）に基づく。Current Relevance とは、「ある行為が何らかの点で現在時において観察可能なものに関連をもっている」（p.51）ことである。また、「設定時」とは金水（2000）における「出来事を眺める基準点」（p.14）を指す。テオクもまた、この形式が選択される時には、話者が行為を設定時と何らかに関連付けていることが示されるという点で、Current Relevance を有する形式だと言える。

このようにテオクが「行為の完了を設定時と結びつける」性質を持つと捉えれば、テオクの有無による意味の違いを明確にすることができる。そして「準備」とは、テオクの有無にかかわらず、文脈に支えられて読み取られる意味であると考えることができる。

したがって、日本語教育においてテオクを提出する際には、文脈に影響を受けない純粋なテオク文から提示したうえで、他の要素から影響を受け得るテオク文へと拡大していくべきだと考えられる。本稿では特に、文脈に影響を受けない純粋なテオク文として、限界動詞、非限界動詞にテオクが付与される文を例挙する。

1.　「テオク準備説」が定着することになった経緯

テオクをめぐる研究において、テオクは基本義として「準備」を表すと理解されてきた。そしてこの「テオク準備説」は日本語教材にも反映されてきた。本節ではまず準備説が定着することになった経緯を確認する。

1.1. テオク準備説の出発—高橋（1969）

高橋（1969）は、テオクに「準備」を表す意味があると指摘した。この点において、テオク準備説の出発となった研究であるといえる。高橋氏はテオクに対して「すがた」動詞としての用法と、「もくろみ」動詞としての用法、2 つの用法を認めている。「すがた（aspect）」とは、「動詞のあらわすうごきの過程のどの部分を問題にするかという、文法的な意味」（p.119）である。すがた動詞としてのテオクは「対象を変化させて、その結果の状態を持続

させる」（p.133）ことを表す。（以下、例文の下線は筆者による。）

(1) 九月ごろまでしまっておくのに洗濯した…（高橋 1969：133）

一方、「もくろみ」とは「動詞のあらわす動詞がなんのためにおこなわれるかをあらわす文法的な意味」（p.141）である。もくろみ動詞としてのテオクは、「つぎにおこることがらのために準備的な動作としておこなう動作をあらわす」（p.146）。

(2) いくども口のなかで練習しておいた返事が（高橋 1969：147）

この「もくろみ動詞としてのテオクの用法」が「準備」の意味に該当すると考えられる。

1.2. テオクを統一的に捉える試み—吉川（1971）、笠松（1993）

高橋氏がテオクに対して、異なる 2 つの用法を認めたのに対し、吉川（1971）と笠松（1993）はテオクを統一的に説明できる基本義を立てることを試みている。

まず、吉川（1971）は高橋氏が指摘した「対象を変化させて、その結果の状態を持続させる」用法をテオクの基本義と捉え、これをアスペクトの意味と呼んでいる。そして、「準備」や「一時的な処置」とは、このテオクのアスペクトの意味を基本として、文脈に応じて派生された結果表れる意味だとしている（pp.267-268）。

(3) （なわとびを—筆者注）使ったら、もとのところにきちんとかけておいて下さい。（吉川 1971：270）

吉川氏は(3)を次のように解釈する。すなわち、「なわとび」を「かけた」状態が持続する意味が基本としてある。そして「『みんながつかえるように』と考えれば、『準備』の意味」になり、「『管理上、私があとでしまいます。』と考えれば『一時的処置』の意味」になる（p.270）。

一方、笠松（1993）は、「あとにおこる事態に備えて、まえもっておこなう動作」（p.130）を表すことがテオクの基本義であると捉えている。つまり、高橋氏がテオクの用法のひとつと見た「準備」を、テオク全体を覆う意味であるとした点で、テオク準備説を進めた研究であるといえる。笠松氏は、テオク準備説に立つ根拠を 2 点挙げている。ひとつは、高橋氏と吉川氏が指摘するような、テオクが「対象を変化させて、その結果の状態を持続させる」場合（=(4)）であっても、「準備」の意味は表されると考えられる点である。

(4) 千枝子が出張ででかけた日、静子は夕食のしたくをしながら、二階の啓太郎のぶんも、小アジのあげたのをひとさらとりわけておいた。（笠松 1993：125）

もうひとつは、「アスペクトの意味」が「対象に変化をあたえることをあらわさない他動詞や自動詞が、『しておく』のかたちをとるばあいには」見られない点である（pp.120-121）。

(5) われわれは、むかしよんだ「ロビンソン・クルーソー」の細目をかたりあい、土民に木から火をおこす方法をまなんでおいた。（笠松 1993：120）

(5)における「学ぶ」は対象に変化をあたえることをあらわさない動詞である。このとき、「対象を変化させて、その結果の状態を持続させる」という意味は表されない。

1.3. テオク準備説の難点—谷口（2000）

谷口（2000）はテオク準備説に対して、「あとにおこる事態に備えて、まえもっておこなう動作」であるとは捉えられない、「終結性」をもったテオクの用法があることを指摘している。終結性は谷口氏による用語であり、「話し手やその動作主が、文脈上、その事態の収拾や問題の解決と言った一種の終結的な行為を表わす」（p.3）ものである。

(6) 食べたあとの食器はちゃんと洗っておいてね。（谷口 2000：3）

(7) もうこの町に来ることもないだろうから、よく見ておこう。（谷口 2000：4）

(8) まあ、そういうことにしといて下さい。（谷口 2000：6）

谷口氏は(6)(7)(8)では、何のための準備的動作なのかが想定しにくいと述べている。そして、(6)のテオクの用法を「事後処置」と呼び、「眼前の事態を完了、完遂するための最終段階（仕上げ）の動作を表す」（p.4）としている。(7)のテオクの用法は「心理的な充足行為」と呼ばれ「行為者の心理的充足行為を表わ」す（p.5）。また、(8)のテオクの用法は「結語」と呼ばれ、「まとまった文章や談話の結語として用いられる」（p.5）。このようなテオクの用法が存在することは、テオクを「準備」によって統一的に説明するにあたっての難点となる。

1.4. テオク準備説の発展—菊地（2009）

菊地（2009）は「後の時点における効力の発現を見越して意図的にその行為をおこなうこと」（p.1）をテオクの基本義と規定している。これはテオク準備説を発展させた立場である。というのも、ここで指摘されている、後のことを見込むというテオクの「意図性」とは、「もくろみ」「あとの事態にそなえる」といった「準備」の意味の基礎にある概念だと考えられるからである。

菊地氏は、テオクの基本義を意図性とすることによって、谷口（2000）において準備性が想定しにくい、「終結性」を持つとされた用法も含み込んで、テオクを統一的に説明することができるようになると主張する。(6)「事後処置」用法は、「行動が終わったあとで次回のためにしておくべき」（p.9）行為と捉えることもできる。(7)「心理的な充足行為」用法は、「その行為を行うことが、『後の充足感をもたらす（あるいは後悔をのこさない）』という効力を発現するために」テオクが用いられると考えられる。さらに(8)「結語」用法は、「効力の発現を見越して」が「よい措置だと考えて」に弱化したものと捉えることができる。したがって、菊地氏は(8)においても、テオクで表される、「後を見越す」という意図性は表されると説明している。（pp.12-13）

2. 日本語教材におけるテオク準備説とその問題

以上、テオクをめぐる研究において、テオクの用法を統一的に説明するためのキーワードとして、「準備」が用いられてきた。そして、準備性が希薄な用法までを含み込むには、後を見越すという「意図性」を表すことにテオクの性質を求める必要があることを確認した。

本節では、テオクの基本義を「準備」であるとするテオク準備説が、日本語教材にも反映されていることを確認し、その問題点を指摘する。本稿では次の 2 つの教材を取り上げる。それは、『NEJ : A New Approach to Elementary Japanese —テーマで学ぶ基礎日本語—[vol.2]』と、『日本語誤用辞典外国人学習者の誤用から学ぶ日本語の意味用法と指導のポイント』である。以下、前者を『NEJ』、後者を『誤用辞典』と表記する。

まず、『NEJ』において、テオクは「将来の利便性のために行われた行為を表わす」(p.117)と解説されており、次のような例が挙げられている。

(9) 夕方、お客さんが来るので、冷蔵庫にビールを冷やしておきました。

(10) いろいろな経験は役に立つので、大学時代にいろいろな経験をしておくことが大切です。

(9)(10)は両者とも『NEJ』において「準備」の用法に含まれている。しかし(10)のような文は、先行研究においては「準備」とは区別して扱われてきた。高橋（1969）では「体験する動き」、谷口（2000）では「心理的充足」と呼ばれている。また、大場（2005）では、状態の保持を表さず、準備性が希薄な用法であると指摘されている。したがって『NEJ』におけるテオクの規定は、菊地（2009）と同じく、後を見越すという意図性を表すことをテオクの基本義と見るものであるといえる。

また『日本語誤用辞典』も、テオクを意図性によって規定する立場にある。ここではテオクが「あとにおこる事柄を予測して、前もって何かすることを表す」と規定されている。そして、「そのままにしておく」など「放置」も表すが、「それは『あとのことを考えて』なされるという意味合いを含む」と説明されている（p.420）。

以上、日本語教材においてもテオクの第一の用法として「準備」が挙げられていること、さらに具体的な準備の目的が想定しにくい場合であっても、「後を見越す」という意図性が読み取れれば、「準備」の用法に含まれ得ることを確認した。しかし、佐藤（2015）が指摘するように、テオクの基本義を「準備」「意図性」と捉えてしまえば、テオクを用いない文との意味の違いが説明しにくくなるという問題が生じる。

(11) あした試験があるので、今晩勉強しておきます。

たしかに(11)では、「勉強しておく」という行為が、「明日の試験」を見越した意図的な行為である、と説明できる。しかし、(12)のようにテオクを用いない文でも「準備」の意味を読み取ることは可能である。

(12) あした試験があるので、今晩勉強します。

(12)においても、「勉強する」という行為が「明日の試験」に備える行為であること、あるいは、「明日の試験」を見越した意図的な行為であることに変わりはない[1]。

テオク準備説が抱えるこの問題を解決するためには、テオクを用いない文では表し得ないテオクが独自に持つ性質を明らかにする必要がある。

3.　テオクを用いない文との比較から明らかになるテオクの性質

本節では、テオク文とテオクを用いない文との意味の相違から、テオクが「行為の完了を設定時と結びつける」性質を持つと規定できることを主張する。

テオクの性質を考える上でまず留意すべき点は、テオクに前接する動詞が基本的には意志動詞に限られるという点である[2]。本節では、意志動詞を「限界動詞」と「非限界動詞」とに区別し、それぞれの動詞にテオクが付与される文を対象に、テオクの有無による意味の相違を考察する。

そして、「限界動詞＋テオク」の場合、行為を完了させた結果生じる状態を維持することが表されることを確認する。また、「非限界動詞＋テオク」の場合、行為の完了とそれに伴う結果や効果が表されることを確認する。どちらの動詞が前接しても、行為を完了させた結果までが表されるのは、テオクが行為の完了を設定時と結びつける働きをしているためだと考えることができる。

3.1. 限界動詞＋テオク

限界動詞とは、「終了限界」を意味的に含む、変化を表す動詞である（金水 2000：31）。限界動詞がテオクを伴う場合、行為を完了させた結果生じる状態を維持することが表される。この捉え方は、テオクを「対象を変化させて、その結果の状態を持続させる」ことを表すと規定した高橋（1969）および吉川（1971）の論を部分的に引き継ぐものである。しかし本稿では、テオクの有無による意味の差異に基づいて、「対象を変化させる」意味はテオクではなく、テオクに前接する動詞の語彙内容によって表されると考える。そのうえで、変化の結果状態の持続とは、限界動詞にテオクが付与される場合に、行為の完了が設定時と結びつけて捉えられた結果、表される意味であると考える。限界動詞には次のような動詞がある。

①対象の位置変化を表す動詞（とる、立てる、とめる、置く等）

②対象の状態変化を表す動詞（（電気を）点ける、切る、使役形等）

③主体の知識量の変化を表す動詞（覚える、知る等）

まず、テオクを伴う場合の意味を見る。

(13) 「本になったら私に二冊ちょうだい、一冊はもち歩くためで、あと一冊は大事にとっておくんだから！」（『詩人のノート』1986）

(14) お祭りの間は、うちの前に立てておこうよ。（吉川 1971：272）

(15) ここに自転車をとめておくと盗まれますよ。（佐藤 2015：12）

(16) お菓子をテーブルの上に置いておいたら、弟が食べてしまった。（佐藤 2015：13）

(17) 電気を付けておくな。（作例）

(18) 小梅は種をとり、2 つ割りに切っておきます。（『家族で楽しむ日本の行事としきたり』2005）

(19) 言いたがるものには、なんとでも言わせておくさ。（笠松 1993：135）

(20) 「（猫は—筆者注）あったかにして、おこたに寝かしておきました。」（笠松 1993：135）

(21) わからないことがあったら、あとで聞きかえすことができるように、おぼえておく。（吉川 1971：286）

(22) 「常識だろ！劇作家になりたいのなら、このくらいの事は知っておけよ。」（『パメラパムラの不思議な一座』2004）

(13)〜(22)においては、行為を完了させた結果生じる状態を維持することが表される。(13)を例にとれば、「（本を）とっておく」では、本が話者の手に渡った結果、それが話者の手元にある状態が維持されることが表される。これは、テオクによって、行為の完了から生じた変化の結果状態が、設定時と関連付けられるためであると考えられる。それにより、設定時、つまりこの場合には「本になったら」で表される未来においても、変化の結果状態がなお継続していると捉えられることになる。

つぎに、(13)〜(22)について、 テオクを用いない場合に表される意味を検討する。

(23) *「本になったら私に二冊ちょうだい、一冊はもち歩くためで、あと一冊は大事にとるんだから！」

(24) *お祭りの間は、うちの前に立てようよ。

(25) ここに自転車をとめると盗まれますよ。

(26) お菓子をテーブルの上に置いたら、弟が食べてしまった。

(27) 電気を付けるな。

(28) 小梅は種をとり、2 つ割りに切ります。

(29) 言いたがるものには、なんとでも言わせるさ。

(30) 「…。（猫は）あったかにして、おこたに寝かしました。」

(31) わからないことがあったら、あとで聞きかえすことができるように、おぼえる。

(32) ?「常識だろ！劇作家になりたいのなら、このくらいの事は知れよ。」

(23)〜(32)のようにテオクを用いない場合、前接の動詞の意味によって何らかの変化が生じることのみが表される。変化の結果生じる状態を維持することまでは表されない。特に、(23)「取る」(32)「知る」については、他の要素によって動作の終了限界を設けることはできないため許容度が落ちる。たとえば、「2 時間本を取った」「2 時間そのことを知った」などと言うことはできない。また、(24)においても、「立てよう」という意志を一定期間（＝「お祭りの間」）維持することは表せないため、非用となる。

このように、テオクによって行為の完了が設定時と結びつけられることで、変化の結果生じた状態を維持することが表される。したがって、「維持」の意味を持つ語が用いられる場合、テオクの有無による意味の違いは捉えにくくなる。（以下の例文は出典においてテオクを伴う。カタカナ表記は筆者による。）

(33) 天のもたらした偶然が、この人類の宝を、かくも完全に｛保存シテ／保存しておいて｝くれたのである。（吉川 1971：273）

(34) 違法駐車はいつもすぐ通報して運んでもらうようにしている。しかし、今日は止め

た人を特定するために、車の所有者が戻ってくるまで{放置シタ／放置しておいた}。（山本 2005：209）

(35) 机の上は｛ソノママニシテ／そのままにしておいて｝ください。（『みんなの日本語初級Ⅱ 教え方の手引き』）

(33)「保存」(34)「放置」(35)「そのまま」はいずれも状態維持の意味を含んでいる。それによって、必ずしもテオクのみの働きによって「維持」の意味が表されるわけではなくなるため、テオクの有無による意味の違いは捉えにくくなる。また、期間を表す副詞句がある場合も、テオクの有無による意味の違いが捉えにくくなる。

(36) とうもろこしのたねを、ひとばん水に｛ツケ／つけておき｝ました。（吉川 1971：274）

(37) 一晩中、洗濯物を外に｛出シ／出しておい｝た。（山本 2005：213）

(36)「ひとばん」(37)「一晩中」という期間を表す副詞句があるために、テオクを用いなくても、「漬ける」「出す」という行為の結果生じる状態が一定期間維持されることが示される。

3.2. 非限界動詞＋テオク

限界動詞に対して、「終了限界」を意味的に含まない、動作を表す動詞は非限界動詞と言われる（金水 2000：31）。非限界動詞がテオクを伴う場合、行為の完了と、それに伴う結果や効果までが表される。まず、テオクを伴う場合の意味を見る。

(38) 食べたあとの食器はちゃんと洗っておいてね。=(6)

(39) A：まだ全員そろってないよね。注文どうしよう。
B：とりあえず、適当に頼んでおこうか。

(40) 同司令部が、ミッドウェー島を叩いておく必要があると考えた理由はいくつかあった。（『ミッドウェー戦記』1986）

(41) 「…うち、住所調べておいてあげようか。」（『クリコフの思い出』1986）

(42) 兄達の話だとヨーロッパのある村の人は、どうせ地球が消滅してしまうのなら今のうちに大いに楽しんでおこうと全財産を使いはたして皆で飲み食いして大騒ぎをしたということであった。（『マイハッピーオールドデイズ』1989）

(43) それ（先生からの手紙—筆者注）には「まだ卒業するチャンスはあるから、修士論文の材料を考えておきなさい」と書かれていました。（『チベット死者の書』2001）

(44) 「…今夜の宴でけりをつけてやる。関平、孟起を呼んでおけよ。」（『孔明の牙』1994）

(38)〜(44)における動詞（洗う、頼む、叩く、調べる、楽しむ、考える、呼ぶ）はすべて動作が達成される時点を持たない、継続的な動きを表す動詞である。テオクを伴う場合は、ある行為を終えるという行為の完了とそれに伴う結果までが表される。(38)を例にとれば、「洗っておく」によって食器をすべて洗い終えること、その結果、食器がきれいな状態になることまでが表される。

一方、テオクを用いない場合、(38)〜(44)はどのような意味になるだろうか。

(45) 食べたあとの食器はちゃんと洗ってね。

(46) とりあえず、適当に頼もうか。

(47) 同司令部が、ミッドウェー島を叩く必要があると考えた理由はいくつかあった。

(48) 「…うち、住所調べてあげようか。」

(49) 兄達の話だとヨーロッパのある村の人は、どうせ地球が消滅してしまうのなら今のうちに大いに楽しもうと全財産を使いはたして皆で飲み食いして大騒ぎをしたということであった。

(50) それ（=先生からの手紙—筆者注）には「まだ卒業するチャンスはあるから、修士論文の材料を考えなさい」と書かれていました。

(51) 「…今夜の宴でけりをつけてやる。関平、孟起を呼べよ。」

(45)〜(51)のようにテオクを用いない場合、ある動きに取り掛かる、という行為の開始だけが表される。テオクを伴う場合とは異なり、行為を終えた結果やそれに伴う効果までは表されない。(45)「洗う」は(38)「洗っておく」とは異なり、「洗う」という動作に取り掛かることだけが表される。

なお、テオクによって表される行為完了に伴う結果は必ずしも視覚的に捉えられるとは限らない。山本（2000）は(39)と(46)とを比較し、テオクの有無による意味の相違を次のように説明している。

(39) A：まだ全員そろってないよね。注文どうしよう。

B：とりあえず、適当に頼んでおこうか。

(46) とりあえず、適当に頼もうか。

テオクを用いる(39)では「今回の行為はとりあえずの措置であり、後でより妥当な措置がとられるという意識がある。」(p.215) 一方、テオクを用いない(46)では、「当該の行為に『とりあえずの措置』といった意識や将来の時点とのつながりは感じられない。」（p.215）テオクを用いる場合に限って表されるこのような特別な「意識」とは、視覚的に確認することはできないものの、行為完了に伴う効果として表れると考えられる[3]。

このようにテオクを用いる場合に、行為の完了とそれに伴う結果や効果までが表されるのは、テオクによって、行為の完了が設定時の状況と結びつけられるためである。(39)では、注文を終えることが、この場合の設定時、すなわち「とりあえず」で示される発話現在の「注文を済ませていない」状況と関連付けて捉えられている。そのために、設定時に存在する課題に対する効果、「措置がとられた」ことや「将来の時点とのつながり」が意識されることになると考えられる。

以上、非限界動詞がテオクを伴う場合、行為の完了が設定時と結びつけられることによって、行為完了の結果や効果までが表されることを確認した。したがって、文中の他の要素によって完了の意味が表される場合は、テオク単独の働きによって完了の意味が表されるとはいえず、テオクの有無による意味の違いは見えにくくなる。（以下の例文は出典において

テオクを伴う。｛　｝内のカタカナ表記は筆者による。）

(52) 声をかけずに来たが、いまはなにがしか言葉を｛交ワセ／交わしておけ｝ばよかったと思っている。（『人外境通信』1986）

(53) 市内を走る路線バスは回数券か小銭、またはバストークンと呼ばれるコインをあらかじめ｛買ッテ／買っておいて｝、それで払います。（『楽しみながら覚える韓国語会話』1986）

(54) あの縁談は、父さんから｛コトワッタ／ことわっておいた｝よ。（谷口 2000：3）

(55) 返答に困ったので、とりあえずそう｛言ッタ／言っておいた｝。（佐藤 2015：8）

(52)のように「～ば」を伴う場合、テオクを伴わなくても行為の完了が仮定される。また、(53)における「あらかじめ」や、「先に、～する前に、それまでに」など期限を表す副詞句によって終了限界が設けられる場合、テオクの有無によらず行為の完了が表されることになる。そして、(54)(55)のように、過去を表すタ形と共起する場合もまた、テオクを伴わなくても行為の完了が表される。

4.　日本語教育におけるテオクの提出

テオクの意味を「準備」とした場合、テオクの有無による意味の相違が説明しにくい。この問題は、テオクが「行為の完了を設定時と結びつける」性質を持つと捉えることによって、克服することができる。

(56) a 恋人が来るので、部屋を掃除しておきます。（『日本語初級 2 大地メインテキスト』）

b 恋人が来るので、部屋を掃除します。

テオクを用いる(56a)では、行為の完了が設定時＝恋人が来るときと結びつけられ、掃除を終えた結果、部屋が片付いた状態になることや、部屋に何らかの措置が施されるという効果までが表される。それに対し、テオクを用いない(56b)では、恋人が来るまでに掃除に取り掛かることのみが表され、掃除の完了に伴う結果や効果は表されない。このように捉えれば「準備」とは、「恋人が来る」というテオク以外の要素に支えられて読み取られる意味であり、テオクのみによってもたらされる意味ではないと考えられる。

したがって、日本語教育においては、テオク以外の要素に影響を受けない純粋なテオク文から優先的に提出すべきである。3 節に基づけば、他の要素に影響を受けない純粋なテオク文には、2 通りのものが考えられる。ひとつは、限界動詞にテオクが付与される(57)のような文である。

(57) a　A：電気、どうしましょうか。

B：つけておいてください。（作例）

b　（電気を）つけてください。

テオクを用いる(57a)では、既に点灯している電気に対して、電気が付いた状態を保つことが表される。それに対し、テオクを用いない(57b)では、消えている電気に対して、電気を点灯

させることが表される。

他の要素に影響を受けない、もうひとつの純粋なテオク文とは、非限界動詞にテオクが付与される(58)のような文である。

(58) a 食べたあとの食器はちゃんと洗っておいてね。=(6)(38)

b 食べたあとの食器はちゃんと洗ってね。=(45)

テオクを用いる(58a)では、食器を「洗う」ことを完了させた結果、食器がきれいな状態になることや、行為完了の結果、現状に何らかの措置が施されたという効果が表される。一方、テオクを用いない(58b)では、単に食器を「洗う」動作に取り掛かることのみが表される。

以上、テオクを提出する際には優先的に、「限界動詞」「非限界動詞」にテオクが付与され、かつ、文脈に影響を受けない例を提示するべきである。そして、それぞれの場合にテオクがどのように「行為の完了を設定時と結びつけ」ているかを確認したうえで、他の要素に影響を受け得るテオク文へと拡大して提示していくべきである。他の要素に影響を受け得るテオク文には、次のような例が挙げられる。

(59) テストのために、何回も漢字を書いて練習しておきました。(『初級日本語下』)

(60) 私はいつも、朝すぐ学校へ行けるように、前の日に授業の準備をしておきます。(『文化初級日本語Ⅱ教師用指導手引書』)

(61) 机の上はそのままにしておいてください。=(35)

(59)では過去を表すタ形によって行為の完了が表される。(60)では「前の日に」という期間を表す副詞句によって動作の終了限界が設けられ、行為の完了が表される。そして(61)「そのまま」は、語彙的に「ある状態の維持」という意味が含まれる。これらの場合には、必ずしもテオクのみの働きによって、「行為の完了」や「行為完了の結果状態の維持」が表されるわけではなくなる。そのため、(57)(58)に比べれば、テオクの性質は捉えにくくなる。

5. おわりに

以上、本稿では、テオクを用いない文との違いが明らかになるようなテオクの性質を「行為の完了を設定時と結びつける」ことであると記述した。そのうえで、日本語教育におけるテオクの提出法を検討した。

先行研究ではテオクの用法を統一的に説明するためのキーワードとして「準備」やその基礎にある「意図性」が用いられてきた。そしてこの「テオク準備説」は、日本語教材にも反映されてきた。しかしこの説明には、テオクの有無による意味の違いが捉えにくくなるという問題があった。

(62) あした試験があるので、今晩強しておきます。=(11)

(62)については、テオクを伴わずとも「準備」が表される。

そこで本稿はテオク文を、テオクを用いない文と比較し、両者の意味の相違を検討した。そして、「限界動詞＋テオク」では行為の完了によって生じる変化の結果状態を維持するこ

とが、「非限界動詞＋テオク」では、行為の完了によって生じる結果や効果までが表されることを確認した。本稿ではこのように、行為の完了とその結果までが表されるのは、テオクが「行為の完了を設定時と結びつける」性質を持つことに因るとまとめた。

テオクの性質をこのように捉えることで、テオクの有無による意味の違いを明確にすることができる。(62)においては、テオクを伴う場合には、明日の試験までに勉強を終えた結果、知識が頭に入った状態になることまでが表される。一方、テオクを伴わない場合には、明日の試験までに、勉強に取り掛かることだけが表され、勉強を終えた結果や効果までは含意されない。(62)における「準備」の意味は、テオクの有無にかかわらず、「あした試験がある」という文脈に支えられて読み取られると考えられる。

そして本稿では結論として、日本語教育においてテオクを提出する際には、文脈に影響を受けない純粋なテオク文から提示したうえで、他の要素から影響を受け得るテオク文へと拡大していくべきであると主張した。特に、文脈に影響を受けない純粋なテオク文として、限界動詞、非限界動詞にテオクが付与される文を挙げた。

参考文献

大場美穂子（2005）「補助動詞「おく」についての一考察」『東京大学留学生センター教育研究論集』14，pp.19-33，東京大学留学生センター.

笠松郁子（1993）「「しておく」を述語にする文」，言語学研究会（編）『ことばの科学６』６，むぎ書房，pp.117-139.

菊地康人（2009）「『ておく』の分析」『東京大学留学生センター教育研究論集』15，pp.1-20，東京大学留学生センター.

金水敏（2000）「第 1 章 時の表現」金水敏・工藤真由美・沼田善子著『日本語の文法 2 時・否定と取り立て』岩波書店.

佐藤琢三（2015）「第 1 章 補助動詞テオク—意味・語用論的特徴と学習者の問題」，阿部次郎、庵功雄、佐藤琢三（編）『文法・談話研究と日本語教育の接点』pp.1-18，くろしお出版.

高橋太郎（1976）（1969 初出）「すがたともくろみ」金田一春彦（編）『日本語動詞のアスペクト』pp.117-153，むぎ書房.

谷口秀治（2000）「「～ておく」に関する一考察—終結性をもつ用法を中心に—」『日本語教育』104，pp.1-9，日本語教育学会.

徳本文（2015）「古代語複合動詞の後項「おく」について」『立教大学大学院日本文 44 日本語・日本文化論集第 24 号 学論叢』15，pp.179-189，立教大学大学院文学研究科日本文学専攻.

廣瀬裕子（2006）「動詞「おく」の文法化のメカニズムー本動詞「おく」と補助動詞「～ておく」の意味的関連性ー」『日本認知言語学会論文集』6，pp. 204-214，日本認知言語学会.

山本裕子（2005）「「～ておく」の意味機能について」『名古屋女子大学紀要』51（人文・社会篇），pp.207-218，名古屋女子大学.

吉川武時（1976)（1971 初出）「現代日本語動詞のアスペクト研究」金田一春彦（編）『日本語動詞のアスペクト』pp.155-327，むぎ書房.

Palmer, F. R. (1974) *The English Verb.* Longman.

参考教材

市川保子『日本語誤用辞典外国人学習者の誤用から学ぶ日本語の意味用法と指導のポイント』（2010）スリーエーネットワーク

スリーエーネットワーク（編）『みんなの日本語初級Ⅱ　教え方の手引き』（2001）スリーエーネットワーク

東京外国語大学留学生日本語教育センター『初級日本語下』（2010）凡人社

西口光一『NEJ : A New Approach to Elementary Japanese —テーマで学ぶ基礎日本語—[vol.2]』（2012）くろしお出版

文化外国語専門学校日本語科『文化初級日本語Ⅱ教師用指導手引書』（1990）凡人社

山崎佳子他『日本語初級 2 大地メインテキスト』（2009）スリーエーネットワーク

用例検索

日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)による

---

[1]廣瀬（2006）もまた、「準備」の意味は文脈に依存して生まれるとしている。廣瀬氏は「あるいは、再びアパートへ行っても、誰にも会えないかもしれない。その場合のために手紙を書いておく。」という例文を挙げている。そして「その場合のために」という記述があることから、「準備」という意味に解釈されると説明している（p.211）

[2]この制限に伴いテオク文の主語は有情者に限られることになる。ただし、徳本（2015）が指摘するように、「自分でころんでおいて」など無意志動詞にテオクを付与することによって、行為の責任の所在を有標的に示す場合もある。

[3] テオクによって表される行為の完了に伴う「効果」には次のような例も認められる。

「だが、言っておくが、最初の矢でりんごを射当てるようによくねらいをさだめよ。（吉川 1971：284)」

吉川氏は、このように文頭に置かれるテオクには、「文の次の部分に聴き手の注意を向けさせる」はたらきがあると述べている。これは、テオクによって、「言う」という行為の完了が設定時と関連付けられることで表される効果であると考えられる。この時、テオクを伴わない形は、非用となる。

「*だが、言うが、最初の矢でりんごを射当てるようによくねらいをさだめよ。」

この文が非用になるのは、「言う」行為が設定時とどのような関係にあるかが不明であり、誰に対して何を「言う」のかがわからなくなるからであると考えられる。